

飯舘 百景

いいたてっ子発表会 「赤蜻祭」

10月31日、「いいたて希望の里学園」で、義務教育学校となって初めてのいいたてっ子発表会「赤蜻祭」が開かれました。新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、対策を徹底した上で、観覧者を限定、時間も短縮しての開催となりました。

実行委員長で児童生徒会長の渡邊諒介さん（9年生）が、「皆さんの希望になれるようが

で垣間見えるような丁寧な発表。力を合わせて最後までやり遂げようとする気持ち、学年を問わず、児童生徒の表情にあふれていました。

仲間と一緒にいきいきと発表を行う児童生徒の姿は、まさに「希望」。拍手を送る会場全体が、誇らしさと感動に包まれていました。

「いいたて学」では、児童生徒が、ふるさとを知り、ふるさとを盛り上げるさまざまな取り組みを続けています。写真は、後期課程の「ラオスホストタウンプロジェクト」における「食料理省」の発表です。同省の生徒は、これまで開発してきたレシピを卓上カレンダーの形にまとめた他、ラオス料理でよく使われるパクチーと村特産のインゲンを使ったスープ「パクーゲンポタージュ」の開発・商品化も進めています。



深いメッセージを伝える5・6年生の舞台



3・4年生は身体表現・演奏・詩の朗読を堂々と



1・2年生の劇「おおきなかぶ」の一場面



先輩から後輩へ継承される田植え踊り